

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	豊岡短期大学
設置者名	学校法人弘徳学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
—	こども学科	夜・通信	—	—	16 単位	16 単位	7 単位	—
	こども学科	夜・ <u>通信</u>			7 単位	7 単位	7 単位	—
<p>(備考) 通学課程では、「保育原理」2単位、「乳幼児保育」2単位、「教育課程論」2単位、「保育内容総論」(1年生)1単位、「保育内容総論」(2年生)1単位、「保育実習指導Ⅱ」1単位、「教育実習」4単位、「教育実習事前・事後指導」1単位、「保育・教職実践演習(幼稚園)」2単位である。 授業科目数の確認については、本学ホームページの学科紹介—授業概要(シラバス)2019年度版にて公表している (参照先 <a href="https://koutoku.ac.jp/department/syllabus.html">https://koutoku.ac.jp/department/syllabus.html</a>)</p> <p>通信教育課程では、「保育内容総論」1単位、「表現とこどもの運動」1単位、「健康論」1単位、「こどもの健康と安全」1単位、「社会福祉論」2単位、「地域ボランティア」1単位である。 授業科目数の確認については、カリキュラム・授業概要(シラバス)にて公表している。 (参照先 <a href="https://koutoku.ac.jp/tushin/kodomo/about/curriculum.html">https://koutoku.ac.jp/tushin/kodomo/about/curriculum.html</a>)</p>								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p>通学課程では、本学ホームページの「こども学科の教員紹介」の中で、教員氏名、授業担当科目、を公表している。教員氏名をクリックすると、教員紹介のページがある。当該科目については、授業概要(シラバス)2019年度版にて「実務経験の概要」欄を設け、その中で公表している。 (参照先 <a href="https://koutoku.ac.jp/department/syllabus.html">https://koutoku.ac.jp/department/syllabus.html</a>) 併せて、実務経験のある教員等による授業科目の配置一覧を公表している。 (参照先 <a href="https://koutoku.ac.jp/outline/kouhyou.html">https://koutoku.ac.jp/outline/kouhyou.html</a>)</p> <p>通信教育課程では、「実務家教員一覧」を作成し、ホームページで公表している。 (参照先 <a href="https://koutoku.ac.jp/tushin/kodomo/about/message.html">https://koutoku.ac.jp/tushin/kodomo/about/message.html</a>)</p>
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名	該当なし
(困難である理由)	該当なし

## 様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	豊岡短期大学
設置者名	学校法人弘徳学園

### 1. 理事（役員）名簿の公表方法

本学ホームページの公表情報ページにて公表 (参照先 <a href="https://koutoku.ac.jp/outline/kouhyou.html">https://koutoku.ac.jp/outline/kouhyou.html</a> )
--

### 2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	事務所 所長	H30. 3. 1 ~ R4. 2. 28	校舎維持管理に関する事項
非常勤	教育機関 経営	H30. 5. 1 ~ R4. 4. 30	教育の向上に関する事項
(備考) 学外者の理事は全員で3名である。			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	豊岡短期大学
設置者名	学校法人弘徳学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
	<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>通学課程では、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)の作成にあたっては、毎年、教育改善実施(FD)委員会及び教務委員会の指示のもと、各科目担当者に授業計画書(シラバス)作成上の注意事項等を記した資料を配付し説明したうえで、作成を依頼している。作成されたすべての授業計画書(シラバス)に対して、教育改善実施(FD)委員長及び教務学生課の構成員が独自のチェックリストから目を通し、必要な情報が不足している、不明瞭である等の問題点がある場合には、再度科目担当者へ加筆・修正を依頼している。そして、授業計画書(シラバス)が完成に至るまで、この過程を繰り返している。</p> <p>作成された授業計画書(シラバス)については、「授業概要」として全学生に年度当初に配付するほか、本学ホームページ上にも掲載しており、新年度開始の4月以降できるだけ早い時期に公表している。</p> <p>通信教育課程では、授業のテーマ及び学習成果、授業の概要、授業計画、学生に対する評価等を記載した授業計画書(シラバス)の作成にあたっては、通信教育事務部より各科目担当者に作成上の注意事項等を記した資料を配布し、作成を依頼している。また、毎年、通信教育課程の授業編成会議を開催しその中で、全国から科目担当者が集い十分な協議を行っている。これを通信教育事務部で確認し、加筆・修正を依頼し、授業計画書(シラバス)を作成している。</p> <p>作成された授業計画書(シラバス)は、「授業概要」として全学生に配本するとともにホームページ上にも掲載している。</p>
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>通学課程では、WEBサイトにて公表している。 「授業概要」(シラバス)の参照先： (<a href="https://koutoku.ac.jp/department/syllabus.html">https://koutoku.ac.jp/department/syllabus.html</a>)</p> <p>通信教育課程では、WEBサイトに公表している。 「授業概要」(シラバス)の参照先： (<a href="https://koutoku.ac.jp/tushin/kodomo/about/curriculum.html">https://koutoku.ac.jp/tushin/kodomo/about/curriculum.html</a>)</p>

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

通学課程では、学習成果を厳格かつ適正に評価すべく、毎年学科会議において成績評価に関する全教員の認識の統一や評価基準の周知を行っている。そのうえで、各教員は授業概要にあらかじめ記し、学生に周知した成績評価基準に則り、定期試験結果、レポート等の課題の内容、授業に取り組む姿勢等の領域から学習成果の達成状況を測定し数値であらわしている。そして、厳正に成績評価を行い、単位認定を行なっている。

本学専任教員が担当する科目については、PDCA サイクルを用いた授業改善シートの作成を求めている。その項目のひとつである学習成果において、領域毎の達成状況の人数を記しており、その状況、割合について、教育改善実施 (FD) 委員長等により確認している。

通信教育課程では、通信教育の履修方法として①通信科目、②面接科目、③通信科目と面接科目の併習、④実習科目の4通りの履修方法がある。この履修方法ごとに成績評価の方法を以下のように設定している。

①レポート、科目試験、②スクーリング受講、③レポート、科目試験、スクーリング受講、④実習簿の4通りの履修方法それぞれに評価方法を定めている。これは毎年専任教員で実施する授業方針編成会議において、評価に関する認識の統一を行っている。そのうえで、レポートについては、その合否を評価している。さらに、科目試験については、100点満点で60点以上を合格とし、得点領域を5段階SABCDにて評価している。スクーリング受講科目についても、100点満点で60点以上を合格とし、得点領域を5段階SABCDにて評価している。実習科目については、実習簿により100点満点で60点以上を合格とし、得点領域を5段階SABCDにて評価している。すべての採点について、ループリック評価表を導入しており、評価の項目・基準を明確にしている。

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>本学の通学課程ではGPAは導入していないが、各教員が定期試験やレポート、平常点等の合計点(100点満点であり、以後「成績評価素点」と呼ぶ)を算出し、それを本学の定める成績評価基準に照らし合わせて、秀・優・良・可・不可の評価を決定している。算出された成績評価素点については、教授会においてその分布を検証することとなっている。その中で極端に分布が偏っている等、厳正な成績評価に疑義のあるものについては、担当教員に個別のヒアリングを行い、その結果に応じて改善を依頼している。</p> <p>また、この成績評価素点から学期毎に各学生の全科目の平均点及び全体順位を算出している。その結果は、本学独自の給付型奨学金の継続・変更、4年制大学への編入等の推薦の可否の決定の際などにも活用されるとともに、担任教員、奨学生委員会等との学生面談(保護者を含めた面談を含む)において、学生自身に伝達し指導している。</p> <p>現時点においては、この各学生の「成績評価素点」(学生の学修状況も含め)は、教授会、奨学生委員会、担任教員を含め組織として把握できており、その成績の分布状況等も同様である。</p> <p>通信教育課程では、その特性上、同一科目であっても一人の教員が全ての学生の成績評価を行なうわけではないため、厳密かつ客観的な成績評価を確立するために、ルーブリック評価表を導入し、レポート、科目試験、スクーリング科目に対して、科目毎に評価方法を定めている。毎年専任教員が集い実施する授業方針編成会議において、成績評価に対して詳細な事項に及ぶ部分まで認識の統一を図っている。そして、GPAは導入していないが厳密かつ公平性を担保した成績評価から通信教育部として、すべての学生の学修状況を成績評価素点の平均点を算出し、全体の成績分布を導出し分析する体制が確立できている。各学生の学修状況について、通信教育部の教務システム(TtLeS)の一部を公開することにより学生自身が現在の学習状況、評価を把握できるようにしている。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>通学課程では、各授業科目の成績評価方法は、授業概要にまた成績評価基準は学生便覧に掲載しいずれも本学ホームページ上で公表している。</p> <p>トップページ→大学紹介→公表情報→教育情報の公開 (参照先 <a href="https://koutoku.ac.jp/outline/kouhyou.html">https://koutoku.ac.jp/outline/kouhyou.html</a>)</p> <p>「授業概要」(シラバス): (参照先 <a href="https://koutoku.ac.jp/department/syllabus.html">https://koutoku.ac.jp/department/syllabus.html</a>)</p> <p>「学生便覧」 (参照先 <a href="https://koutoku.ac.jp/outline/kouhyou.html">https://koutoku.ac.jp/outline/kouhyou.html</a>)</p> <p>通信教育課程では、ホームページ上に算出方法を記載し、開示請求のあった学生に対し個別に公表する。 (参照先 <a href="https://koutoku.ac.jp/tushin/kodomo/important/2019/07/post-17.html">https://koutoku.ac.jp/tushin/kodomo/important/2019/07/post-17.html</a>)</p>

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)          本学では、ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）について、次のとおり定めている。</p> <p>「本学は「建学の精神」と「教育目標」に基づいて、保育者としての知識と技能を習得し、それらに裏打ちされた深い造詣と社会貢献への使命感を備える人材を社会に送り出すことに努めています。卒業認定にあたっては厳正に成績評価を行い、学則に規定する所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位授与します。」</p> <p>通学課程では、卒業に必要な単位数は、平成 30・31 年度卒業生は、総合科目 8 単位以上、専門教育科目 54 単位以上、合計 62 単位以上を修得することとされている。</p> <p>実際の学生の卒業認定にあたっては、毎年度全学生の卒業の可否を判定する教授会（卒業判定会議）において、卒業必修科目の修得と修得単位数を確認し、審査する形で、卒業認定を行なっている。</p> <p>卒業の認定に関する方針の公表については、学生便覧に記載し、学生便覧を WEB に記載する形で公表していることに加え、入試要項（請求に応じて個別に送付）にも記載し、受験生やその保護者にも周知している。入学式後の入学生及び保護者に対するオリエンテーションにおいても、説明機会を設けている。</p> <p>通信教育課程では、卒業に必要な単位数は、総合科目 8 単位以上、専門教育科目 54 単位以上、合計 62 単位以上を習得することとしている。実際の卒業に当たっては、代議員会において、卒業判定会議を実施し、単位の取得状況等を審査し卒業認定を行っている。</p> <p>卒業の認定に関する方針の公表については、学習便覧に記載し、公表している。また、新入生オリエンテーションにおいても、説明機会を設けている。</p>	
<p>卒業の認定に関する          方針の公表方法</p>	<p>通学課程では、入試要項・学生便覧に記載し、それらは本学ホームページ上で公表されている。学生便覧は全学生に配付している。</p> <p>入試要項：資料請求に応じて個別に送付          「学生便覧」          （参照先 <a href="https://koutoku.ac.jp/outline/kouhyou.html">https://koutoku.ac.jp/outline/kouhyou.html</a>)          教育情報の公開 → 学生便覧</p> <p>通信教育課程では、学習便覧に記載し、全学生に配本している。</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	豊岡短期大学
設置者名	学校法人弘徳学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	ホームページへ掲載している <a href="https://koutoku.ac.jp/outline/zaimu.html">https://koutoku.ac.jp/outline/zaimu.html</a>
収支計算書又は損益計算書	ホームページへ掲載している <a href="https://koutoku.ac.jp/outline/zaimu.html">https://koutoku.ac.jp/outline/zaimu.html</a>
財産目録	ホームページへ掲載している(主項目のみ) <a href="https://koutoku.ac.jp/outline/zaimu.html">https://koutoku.ac.jp/outline/zaimu.html</a>
事業報告書	ホームページへ掲載している <a href="https://koutoku.ac.jp/outline/zaimu.html">https://koutoku.ac.jp/outline/zaimu.html</a>
監事による監査報告(書)	ホームページへ掲載している(デフォルト版印省略) <a href="https://koutoku.ac.jp/outline/zaimu.html">https://koutoku.ac.jp/outline/zaimu.html</a>

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:2019年度事業計画書)	対象年度:令和元年度)
公表方法:ホームページへ掲載している (参照先 <a href="https://koutoku.ac.jp/outline/zaimu.html">https://koutoku.ac.jp/outline/zaimu.html</a> )	
中長期計画(名称:	対象年度: )
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

<p>公表方法: 本学ホームページにて公表している (参照先 <a href="https://koutoku.ac.jp/outline/daisansha.html">https://koutoku.ac.jp/outline/daisansha.html</a> 認証評価を受けた自己点検評価報告書) 本学ホームページ大学評価において、認証評価を受けた自己点検評価報告書を公表している。</p> <p>本学は、部署(総務部、教務学生部、通信教育事務部、図書館)、常設委員会、関連規定に基づく委員会(委員会は年度により設置数が異なるが2019年度は27)のすべてが、年度開始当初にPDCAサイクルを用いた改善シートを作成し、委員会活動を実施し常に検証している。その部署・委員会の改善シートは、教授会において目標、計画、取り組みと成果について精査し、組織内部の質保証を試みている。</p> <p>本学では、このPDCAによる改善シートを用いた部署、委員会活動により、日常的に点検・評価が可能な体制が構築できている。その点検・評価については、このPDCAによる改善シートをまとめる形で、認証評価を受審後の4年度分は2年度分を併せた報告書を作成し、ホームページで公表している。</p> <p>(参照先 <a href="https://koutoku.ac.jp/outline/daisansha.html">https://koutoku.ac.jp/outline/daisansha.html</a>)</p>
--

## (2) 認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：公表方法：本学ホームページの公表情報、大学評価において、機関別評価結果とともに自己点検評価報告書を公表している。

前回、平成 26 年に受審し、平成 27 年 3 月に適格の認定を受けている。

(参照先 <https://koutoku.ac.jp/outline/daisansha.html>)

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名	こども学科及び通信教育部こども学科
教育研究上の目的（公表方法：入試要項、学生便覧、本学ホームページ） （参照先 <a href="https://koutoku.ac.jp/outline/policy.html">https://koutoku.ac.jp/outline/policy.html</a> ）	
（概要）建学の理念 本学は、近畿大学の創設者 世耕弘一先生の説かれた「教育の目的は 人に愛される人 信頼される人 尊敬される人を育成することにある」を建学の精神とし、人間は、自然のなかで他の生命とともに生かされているという認識をもち、他人や自然を思いやる豊かな人間性と創造性に培われたいいわゆる「共生の心」を備えた人材の育成を目的としています。そして、この目的を達成するために、次のような教育目標をかかげています。 1. 人間は人間だけで生きているのではなく、自然のなかで他の生命とともに、生かされているという認識を持つとともに、その思想を実践する力を培う 2. 専門職業人としての基本的な倫理観を養うとともに、他人を思いやる心を培う 3. 専門職に必要な基礎的知識・技術を修得するとともに、創造性を培う 4. 社会・歴史に対する深い洞察力を身につけるとともに、豊かな人間性を培う 5. 国際社会に適応しうる感性を育むとともに、異文化を理解しうる力を培う	
卒業の認定に関する方針 通学課程では、入試要項、学生便覧、本学ホームページにて公表している。 （参照先 <a href="https://koutoku.ac.jp/outline/policy.html">https://koutoku.ac.jp/outline/policy.html</a> ） 通信教育課程では、学習便覧にて公表している。	
（概要）ディプロマポリシー 学位：短期大学士（幼児教育学） 本学は「建学の精神」と「教育目標」に基づいて、保育者としての知識と技能を修得し、それらに裏打ちされた深い造詣と社会貢献への使命感を備える人材を社会に送り出すことに努めています。卒業認定にあたっては厳正に成績評価を行い、学則に規定する所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位授与します。	
教育課程の編成及び実施に関する方針 通学課程では入試要項、学生便覧、本学ホームページにて公表している。 （参照先 <a href="https://koutoku.ac.jp/outline/policy.html">https://koutoku.ac.jp/outline/policy.html</a> ） 通信教育課程では、学習便覧にて公表している。	
（概要）カリキュラムポリシー 本学は「建学の精神」と「教育目標」を実現するために「総合科目」と「専門教育科目」により保育者としての知識と技能を修得し、それらに裏打ちされた深い造詣と社会貢献への使命感を備えた人材を育成するカリキュラムを提供します。	

1. 入学者の基礎学力の確認及び支援を図ります。また、「総合科目」の充実したカリキュラム展開により教養を備えた学生を育成します。
2. キャリア教育を展開し、マナーやコミュニケーション能力、基本的な倫理観、表現力を養います。
3. 「専門教育科目」においては、保育者としての知識と技能をより高め、社会の多様なニーズに対応できる学識と良識とを備えるためのカリキュラム編成をします。
4. 「専門教育科目」においては、地域社会との連携を図りながら多彩なカリキュラムを展開し、保育者としての理解を深め認識するとともに人間性を養うことに努めます。
5. ボランティア活動の活性化を図り、学生が体験による学びを積極的に展開できるように努めます。

#### 入学者の受入れに関する方針

通学課程では入試要項、学生便覧及び本学ホームページにて公表している。

(参照先 <https://koutoku.ac.jp/outline/policy.html>)

通信教育課程では、学習便覧にて公表している。

(概要) 本学は「建学の精神」と「教育目標」とに共感する入学者を国内外から広く受け入れます。

1. 将来の目標を持っている人
2. 本学が求める基礎学力を備えている人
3. 自己の探求ができるとともに、謙虚に学ぶ姿勢を有する人
4. 専門職を通して、社会に貢献したいと考える人

#### ②教育研究上の基本組織に関すること

本学ホームページにて掲載している「学科紹介」の内容をもって、公表している。

通学課程(参照先 <https://koutoku.ac.jp/department/>)

通信教育課程(参照先 <https://koutoku.ac.jp/tushin/kodomo/about/>)

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	1人	—					1人
こども学科	—	4人	5人	3人	1人	0人	13人
通信教育部	—	12人	7人	34人	2人	0人	55人
※こども学科の本務教員は、通信教育部の本務教員を兼ねる（未計上）							
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
—人		645人					645人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：本学ホームページにて公表 通学課程 （参照先 <a href="https://koutoku.ac.jp/department/teachers/18.html">https://koutoku.ac.jp/department/teachers/18.html</a> ） 通信教育課程 （参照先 <a href="https://koutoku.ac.jp/tushin/about/message.html">https://koutoku.ac.jp/tushin/about/message.html</a> ）					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
こども学科	40人	31人	77.5%	80人	59人	73.8%	—人	—人
通信教育部	2,800人	1,338人	47.8%	7,400人	3,008人	40.6%	—人	5人
合計	2,840人	1,369人	48.2%	7,480人	3,067人	41.0%	—人	5人
(備考) 令和元年5月1日現在、1年生31名、2年生28名								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
こども学科	25人 (100%)	1人 (4.0%)	23人 (92.0%)	1人 (4.0%)
	—人 (—%)	—人 (—%)	—人 (—%)	—人 (—%)
合計	25人 (100%)	1人 (4.0%)	23人 (92.0%)	1人 (4.0%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
通学課程では、毎年、本学ホームページにて公表している (参照先 <a href="https://koutoku.ac.jp/career/jisseki.html">https://koutoku.ac.jp/career/jisseki.html</a> ) 公務員、(豊岡市・朝来市・綾部市立のこども園、保育園等)、私立保育園、幼稚園、こども園(豊岡市内6施設、香美町、朝来町、播磨町、宮津市、舞鶴市、東京都、沖縄県)、一般企業(豊岡市内) 通信教育課程の平成30年度の卒業生は1,724名であるが、卒業後の進学、進路調査は実施していない。				

(備考) 通学課程の平成 30 年度卒業生 25 名の内、1 名は就職等を希望しない。進学した 1 名を除き、就職を希望する 23 名全員が就職した (100%)					
c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
合計	人 (100%)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)	人 ( %)
(備考)					

### ⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 通学課程では、授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関することについて、「授業概要」(シラバス)に記載し、「授業概要」(シラバス)を本学ホームページに掲載することをもって公表している。 (参照先 <a href="https://koutoku.ac.jp/department/syllabus.html">https://koutoku.ac.jp/department/syllabus.html</a> )  通信教育課程では、授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関することについて、「授業概要」(シラバス)に記載し、配布している。また、本学ホームページ上に公表している。 (参照先 <a href="https://koutoku.ac.jp/tushin/kodomo/about/curriculum.html">https://koutoku.ac.jp/tushin/kodomo/about/curriculum.html</a> )
--

### ⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 通学課程では、学習成果を厳格かつ適正に評価すべく、毎年学科会議において成績評価に関する全教員の認識の統一や評価基準の周知を行っている。そのうえで、各教員は授業概要にあらかじめ記し学生に周知した成績評価基準に則り、定期試験結果、レポート等の課題の内容、授業に取り組む姿勢等から学習成果の達成状況を測定し、厳正に成績評価を行い、単位認定を行なっている。(様式第2号の3(3)2.から再掲) 卒業に必要な単位数は、平成30・31年度卒業生は、総合科目8単位以上、専門教育科目54単位以上、合計62単位以上を修得することとしている。 実際の学生の卒業認定にあたっては、毎年度全学生の卒業の可否を判定する教授会(卒業判定会議)において、卒業必修科目の取得および取得単位数を確認し、審査する形で、卒業認定を行なっている。(様式第2号の3(3)4.から再掲)  通信教育課程では、通信教育課程では、通信教育の履修方法として①通信科目、②面接科目、③通信科目と面接科目の併習、④実習科目の4通りの履修方法がある。この履修方法ごとに成績評価の方法が以下のように設定している。
--

①レポート、科目試験、②スクーリング受講、③レポート、科目試験、スクーリング受講、④実習簿の4通りの履修方法それぞれに評価方法を定めている。これは毎年専任教員で実施する授業方針編成会議において、評価に関する認識の統一を行っている。そのうえで、レポートについては、その合否を評価している。さらに、科目試験については、100点満点で60点以上を合格とし、得点領域を5段階SABCDにて評価している。スクーリング受講科目についても、100点満点で60点以上を合格とし、得点領域を5段階SABCDにて評価している。実習科目については、実習簿により100点満点で60点以上を合格とし、得点領域を5段階SABCDにて評価している。すべての採点について、ルーブリック評価表を導入しており、評価の項目・基準を明確にしている。(様式第2号の3(3)2.から再掲)

卒業に必要な単位数は、総合科目8単位以上、専門教育科目54単位以上、合計62単位以上を習得することとしている。実際の卒業に当たっては、代議員会において、卒業判定会議を実施し、単位の取得状況等を審査し卒業認定を行っている。

卒業の認定に関する方針の公表については、学習便覧に記載し、公表している。また、新入生オリエンテーションにおいても、説明機会を設けている。(様式第2号の3(3)4.から再掲)

学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
—	こども学科	62単位	有・無	単位
	通信教育部 こども学科	62単位	有・無	単位
—	—	—単位	有・無	単位
	—	—単位	有・無	単位
GPAの活用状況(任意記載事項)		公表方法:		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法:		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法: 本学ホームページにて公表している

(参照先 <https://koutoku.ac.jp/outline/shisetsu.html>)

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
—	こども学科	540,000円	200,000円	315,000円	学習管理費、施設整備費など
—	通信教育部 こども学科 保育専攻	110,000円	30,000円	75,000円	学習管理費、スクーリング管理費 など
—	通信教育部 こども学科 幼児専攻	150,000円	30,000円	105,000円	学習管理費、スクーリング管理費 など

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>通学課程では、建学の精神及びアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを定め、建学の精神や教育の目的と保育者に寄せられる社会的ニーズと責任、将来、社会貢献を願う学生のニーズを鑑み、それに対応する2つの学習成果として専門的学習成果と教養的学習成果を定め教育課程を編成している。</p> <p>これらのことを踏まえて、各教科の授業概要の中に学習成果を明記し、達成基準、成績評価等を学生に伝えている。授業の終了時期に学生からの授業評価アンケートを全開講科目で実施し、それらの評価をもとに各科目担当者(専任教員)はPDCAサイクルによる授業改善シートを作成し、教育の質の向上に努めている。</p> <p>免許、資格必修科目の他に学習成果を踏まえた、学習支援として、本学の独自科目「キャリアアップⅠ・Ⅱ・Ⅲ」により、マナーや一般教養、文章力等の習得、さらに1、2年生が企画、製作から表現の過程を協同で作り上げ、年度末に市内のイベントホールを貸し切り、発表まで繋げていく「特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の授業も行っている。</p> <p>補習ではあるが、保育者養成校としてピアノ技能の習得を目指し各学年、週に1~2限の「ピアノ補習」の時間を設け、音楽担当教員による指導巡回をはじめ、全教員で学生の意識付けの支援を行っている。</p> <p>成績に関しては、前期、後期の成績評価発表後、不振な学生は担任等による学生面談や保護者面談を行い、叱咤激励や間接的ではあるが保護者にも学修状況についての理解を求め、サポートをお願いしている。</p> <p>通信教育課程では、各科目のレポート、スクーリング、科目試験において評価基準を公開し、達成基準、成績評価等を学生に周知している。また、学習上の疑問を「質問票」や電話及びEメール等で相談を受け付けており、教員にも直接質問できるよう、教員のメールアドレスを機関紙「豊梅」で公開している。この他、学習をサポートするために、巡回相談会を春・秋・冬の3回全国各地で実施しており、本学事務職員及び教員が全国に出向き、学生の質問や悩み、学習状況についての個別の相談に応じている。</p> <p>教務システム(TtLeS)において、学生自身が成績等の学習進度を把握できる環境を整えている。</p>

b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>通学課程では、進路指導委員会を中心に就職、編入支援を行っている。毎年、前後期オリエンテーションで進路に関する意識づけや進路指導計画を伝えている。具体的な取り組みは、各学年で一般教養と専門教養をはかる就職模試の実施、年数回の就職（進路）ガイダンスを開催し、その中でハローワークの職員の方による就職講話、卒業生を招いた就職活動と仕事についての話、1年生については、学年末に2年生からの就職活動の体験談などを聞ける場をつくっている。就職対策としては、就職試験対策講座により基礎学力の強化、実務的な就職活動の流れや履歴書の書き方、面接指導を複数の教員により行い、学生の不安を取り除いている。</p> <p>学生への情報提供は、就職資料室に幼稚園、保育所、こども園、施設、そして一般企業別に求人票を掲示し&lt;平成30年度は767件（幼稚園115件、保育所・こども園335件、施設159件、公務員69件、一般企業等89件）&gt;、求人内容の詳細は閲覧できるようにしている。</p> <p>通信教育課程では、直接の進路指導、就職支援は行っていないが、幼稚園、保育園、施設等から求人案内が届いた場合、隔月に発行する機関誌「豊梅」及び本学ホームページ上に掲載して、学生に周知している。</p>
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>通学課程では、非常勤職員による学生相談室を設けている。相談日は、月2日から3日、年間18日間（1日6時間）を設け、「相談室だより」等の掲示により学生に周知して取り組んでいる。相談件数は、1日2から6件で平均は約4件、内容は、学習、就職、家族や人間関係等である。一方、教員も各学年2名の担任制をとっており、担任を中心に心身の相談をうけるケースもある。個人情報に抵触しない限り、情報を教員間で共有し、学生指導に生かしている。</p> <p>通信教育課程では、本学で設けている学生相談室を通信教育課程の学生も利用でき、月2日から3日の相談日を掲示等で案内している。</p>

#### ⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

<p>本学ホームページにて公表している。教員紹介において業績・社会的活動等を記すとともに、本学の研究紀要である「論集」をホームページ上で公表している。</p> <p>「教員紹介」：<a href="https://koutoku.ac.jp/department/teachers/index.html">https://koutoku.ac.jp/department/teachers/index.html</a></p> <p>「紀要」：<a href="https://koutoku.ac.jp/department/kiyou.html">https://koutoku.ac.jp/department/kiyou.html</a></p>
---